

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年1月15日現在
(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

播種適期である12月上旬までに9割程度の播種が終了しました。11月中旬以降、気温が高かったため生育は早く、11月下旬播きは4葉期で、今後、追肥や土入れが行われます。12月上旬播きは3葉期で、これから麦踏みが行われます。

播種後、気温が高く、降水量もやや多かったため、雑草の発生量は多いです。雑草の草種や発生状況を確認し、茎葉処理除草剤を適期に処理し、排水対策も徹底しましょう。

◇施設キュウリ◇

10月中下旬定植の促成作型は、新品種(ニーナZ)の導入と暖冬の影響により、出荷量が増加しました。べと病は少発生、一部うどんこ病が上位葉へ進展しています。半促成作型は1月下旬から順次定植が始まる予定です。

日中のハウス内温度の確保、こまめなかん水、炭酸ガス施用等により、草勢の維持に努めましょう。

◇冬春ナス◇

8月中下旬定植作型は、着果数が増加しており、細果傾向で草勢が低下気味です。2月中旬までに不要な芽を整理しましょう。9月上旬以降の定植作型は着果数が少なく、草勢は強くなってきています。大きな山谷は少なく開花が多いため、1月下旬以降に出荷量が増加する見込みです。生育促進のため、ハウスの保温性向上に努め夜温を確保するとともに、昼間のハウス内気温を28～30℃に保ちましょう。

軟腐病等の細菌性病害が散見されます。年内に多発したコナジラミ類が現在も一部で発生しています。春先の増加が懸念されるため対策を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇

普通温州を出荷中です。量は前年より少ない見込みで、12月下旬までで8割程度、2月に全量終了する予定です。糖度は並み～やや低く、酸度は並み～やや高いです。

貯蔵果実の管理は、庫内温度3～5℃、湿度85%を目安に、天候や果皮の状態に応じて換気を行い、定期的に見回って腐敗果を除去しましょう。

◇トルコギョウ◇

秋出荷作型(10～12月出荷)の出荷量は、生育障害の発生が少なく、前年並です。販売単価は、全国的に出回り量が多かった10月が112円と安く、11月以降は若干回復したものの、通期では133円と低い水準でした。

春出荷(3～4月)作型の生育は平年に比べて2週間程度早く、2次小花の発蕾後、整枝と摘蕾作業が行われています。灌水量は少な目で管理し、急性萎凋症の発症を防止すると同時に、ハウス内の湿度を低下させて斑点病、灰色かび病の対策に努めましょう。

◇畜産◇

豚枝肉価格は、鍋物等の定番商材としての根強い需要により、落ち着いた価格で推移しました。鶏卵価格も、鍋物やおでん等の季節需要があり、安定した相場となりました。和牛去勢枝肉価格は、消費税増税以降、需要が冷え込み、3か月連続で前年を下回りました。交雑種見合いの省令価格は、和牛からの需要移行が見られ、過去5年平均と同水準程度となりました。

家畜伝染病予防のため、舎内消毒等、農場の衛生管理、および子牛の防寒対策を徹底しましょう。